

令和5年播種（令和6年産）麦類作況試験生育状況（古川農試）〔3月20日調査結果〕

* 3月19日に調査を実施

1 気象概況〔2月中旬～3月中旬〕(図1)

- 平均気温は、2月中旬は高温で経過したが、2月第5半旬と3月上旬は低温となった。3月第3半旬以降は平年並～平年よりも高く経過した。
- 日照時間は、2月下旬～3月上旬は平年よりも少なく、それ以外の時期では平年並～平年よりも多かった。
- 降水量は、2月中旬、第6半旬、3月第2半旬、第4半旬は平年より少なかった。2月第5半旬、3月第1半旬は多くなった。

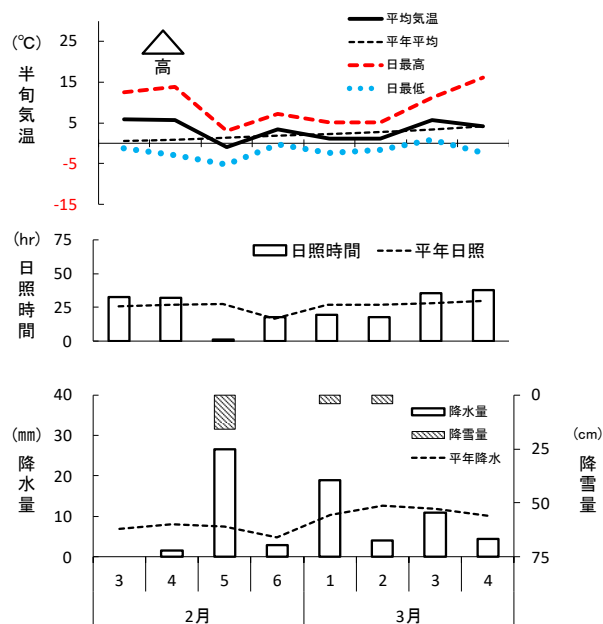


図1 気象経過 古川アメダス

2 生育概況

1) 3月19日現在の生育状況（表1）

10月中旬播種区

- 草丈は、大麦が平年よりやや長い～長く（平年比 107～119%）、小麦は平年よりやや長い～長かった（平年比 113～116%）。
- 茎数は、大麦が平年より少なく（平年比 77～87%）、小麦は平年並だった（平年比 99～101%）。
- 葉数は、大麦は平年より多く（平年差+1.7葉）、小麦も平年より多かった（平年差+1.0～+1.3葉）。

10月下旬播種区

- 草丈は、大麦が平年より長く（平年比 120～121%）、小麦は平年よりやや長い～長かった（平年比 114～116%）。
- 茎数は、大麦「シュンライ」が平年より少なく（平年比 89%）、大麦「ミノリムギ」で平年よりも多く（平年比 133%）、小麦は平年より多かった（平年比 117～141%）。
- 葉数は、大麦が平年より多く（平年差+1.3～+1.5葉）、小麦も平年より多かった（平年差+1.4葉）。

2) 3月19日現在の幼穂長及び幼穂分化程度と生育ステージの予測（表2、3）

10月中旬播種区

- 大麦の幼穂長は、平年より長かった（平年差+1.4～+1.8mm）。
- 小麦の幼穂長は、平年より長く（平年差+0.4～+1.0mm）、幼穂形成始期は「シラネコムギ」が2月23日、「夏黄金」が2月24日に達した。
- 大麦では、減数分裂期が4月13日～16日、出穂期が4月22日～25日、開花期が4月29日～5月2日と予測される。小麦では、減数分裂期が4月20日～21日、出穂期は4月29日～5月2日、開花期は5月11日～12日と予測される。

10月下旬播種区

- 大麦の幼穂長は、平年より長かった（平年差+1.1～2.0mm）。
- 小麦の幼穂長は、平年より長く（平年差+0.6～+0.7mm）、幼穂形成始期は「シラネコムギ」が3月6日、「夏黄金」が3月5日に達した。

- ・大麦では、減数分裂期が4月15日～19日、出穂期が4月24日～28日、開花期が4月30日～5月4日と予測される。小麦では、減数分裂期が4月22日～23日、出穂期は5月1日～3日、開花期は5月13～14日と予測される。

3 栽培管理の状況

- ・幼穂形成期追肥を大麦の下旬播種区で3月11日、小麦の中旬播種区で3月15日、小麦の下旬播種区で3月25日に実施した。
- ・3月21日にハーモニー75DF水和剤を散布した。

表1 生育状況

品種	区別	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(枚)			
		本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差	平年差	
大麦	シュンライ	中旬播種区	14.5	91	107	717	71	77	9.0	+0.2	+1.7
		下旬播種区	12.6	106	121	765	85	89	7.8	+0.4	+1.5
	ミノリムギ	中旬播種区	16.2	103	119	871	75	87	9.3	+0.8	+1.7
		下旬播種区	13.8	105	120	1117	117	133	8.1	+0.3	+1.3
小麦	シラネコムギ	中旬播種区	16.5	106	113	885	85	99	8.8	+0.2	+1.0
		下旬播種区	14.3	91	116	1101	91	117	8.4	+0.5	+1.4
	夏黄金	中旬播種区	13.9	101	116	941	85	101	8.7	+0.1	+1.3
		下旬播種区	11.6	93	114	1020	141	141	7.9	+0.6	+1.4

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

注2) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

表2 幼穂長及び幼穂分化程度

品種	区別	幼穂長(mm)			幼穂分化程度	幼穂形成始期			
		本年	前年差	平年差		本年(月日)	前年(月日)	平年(月日)	
大麦	シュンライ	中旬播種区	5.1	-0.6	+1.8	X	1/5	1/5	1/28
		下旬播種区	4.2	+0.8	+2.0	X	2/12	3/2	3/3
	ミノリムギ	中旬播種区	4.4	-0.4	+1.4	X	1/16	1/14	2/8
		下旬播種区	3.3	+0.1	+1.1	X	2/13	3/2	3/4
小麦	シラネコムギ	中旬播種区	2.0	-0.7	+0.4	IX	2/23	3/6	3/10
		下旬播種区	1.7	-0.4	+0.6	IX	3/6	3/11	3/19
	夏黄金	中旬播種区	2.4	-0.5	+1.0	IX	2/24	3/4	3/10
		下旬播種区	1.8	-0.4	+0.7	IX	3/5	3/11	3/20

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

注2) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注3) 幼穂分化程度: V期未満は省略。

注4) 幼穂形成始期: 幼穂長1mmに達した日。

[参考]麦類の幼穂分化程度と幼穂長(mm)

品種	苞分化期	小穂分化期			穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X
小麦(シラネコムギ等)	0.5	0.5~0.6	0.6~1.0	1.0~1.2	1.2~4.0	4.0~5.0
大麦(シュンライ等)	0.5	0.5~0.7	0.7~1.5	1.5~2.0	2.0~4.0	4.0~5.0

注1) 幼穂分化程度はI~Xの10期に分類されるが、V期以前は外部形態による判定が困難であるため省略した。

注2) 厳密にはVII期は前期と後期に、IX期は前期、中期、後期に区分される。

表3 減数分裂期、出穂期、開花期の本年予測値

品種名	区分	減数分裂期			出穂期			開花期		
		予測値 (月日)	前年値 (月日)	平年値 (月日)	予測値 (月日)	前年値 (月日)	平年値 (月日)	予測値 (月日)	前年値 (月日)	平年値 (月日)
大 麦	シュンライ 中旬播種区	4/13	4/5	4/15	4/22	4/18	4/25	4/29	4/25	5/2
	シュンライ 下旬播種区	4/15	4/13	4/18	4/24	4/22	4/29	4/30	4/30	5/7
	ミノリムギ 中旬播種区	4/16	4/11	4/19	4/25	4/22	4/29	5/2	4/27	5/5
	ミノリムギ 下旬播種区	4/19	4/16	4/21	4/28	4/26	5/3	5/4	5/2	5/9
小 麦	シラネコムギ 中旬播種区	4/21	4/18	4/26	5/2	4/27	5/5	5/12	5/9	5/14
	シラネコムギ 下旬播種区	4/23	4/21	4/27	5/3	4/30	5/7	5/14	5/12	5/17
大 麦	夏黄金 中旬播種区	4/20	4/18	4/26	4/29	4/27	5/6	5/11	5/9	5/14
	夏黄金 下旬播種区	4/22	4/21	4/27	5/1	4/30	5/7	5/13	5/11	5/16

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

注2) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注3) 減数分裂期: 幼穂長が3cmに達した日。

注4) 出穂期: 全茎の40~50%が出穂した日。

注5) 開花期: 全穂数の40~50%が開花した日。

注6) 予測値は予測シート ver4.0 を用いた値。

令和5年播種（令和6年産）麦類生育調査ほ生育状況〔3月20日調査結果〕

表1 麦類生育調査ほ 生育状況

担当普及センター	品種	実施場所	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			幼穂長(mm)		
			本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差	平年差
大河原	シュンライ	大河原町金ヶ瀬	12.4	74	98	797	90	101	3.0	+0.2	+1.0
	ホワイトファイバー	大河原町金ヶ瀬	11.0	80	—	620	98	—	2.5	-0.1	—
仙台	シュンライ	仙台市宮城野区	14.7	92	—	598	63	—	5.3	-0.6	—
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	19.2	125	155	1685	147	167	1.9	+0.5	+0.7
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	16.7	149	129	927	94	89	1.0	-0.3	+0.2
	夏黄金	涌谷町猪岡	11.3	110	—	779	100	—	1.0	+0.4	—
登米	あおばの恋	登米市豊里町	16.8	100	104	704	109	106	1.2	-0.3	+0.1
	シュンライ	石巻市桃生町	22.9	124	159	790	105	97	5.2	-1.1	+2.5
石巻	ミノリムギ	石巻市桃生町	14.6	76	94	905	87	120	2.4	+0.2	+0.3
	シラネコムギ	石巻市小船越	13.0	—	—	1120	—	—	1.1	—	—

注1) 平年値は、過去7か年中の値から、最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 大河原町「ホワイトファイバー」は、令和元年播種から調査のため、平年比（差）はない。

注3) 仙台市「シュンライ」は、令和4年度播種から調査のため、平年比（差）はない。

注4) 石巻市「シラネコムギ」は、令和5年度から調査地変更のため、前年比（差）、平年比（差）はない。

<生育調査ほの状況等>

大河原 「シュンライ」、「ホワイトファイバー」

- ・1月から2月中旬まで概ね温暖に経過し、2月下旬以降は寒暖を繰り返しながらも平年並み。また、1月下旬にまとまった降水があり、2月下旬以降は周期的に降水があった。
- ・目立った諸障害は見られなかった。
- ・播種期が遅かったが、12月以降、温暖に経過したため、平年並みの生育ステージまで回復した。2月下旬以降経年並みに生育。

仙台 「シュンライ」

- ・平均気温は、2月中旬は平年よりかなり高かったものの、2月下旬から3月上旬にかけては平年より低く推移した。
- ・前回調査で見られたハクチョウによる食害は新葉が抽出し回復していた。
- ・幼穂長は5.3mm、既に茎立期を迎えている。

大崎 「シラネコムギ」

- ・気温は2月第3半旬から第4半旬にかけて平年より高温で推移し、日照時間は2月下旬から3月上旬にかけて寡照となった。
- ・草丈が19.2cm、茎数が1685本/m²であった。
- ・幼穂長は1.9mmであった。
- ・鳥害がわずかに確認されていたが、回復傾向である。

美里 「シラネコムギ」、「夏黄金」

- ・シラネコムギは、肥料切れによる下葉の黄化、退色が見られる。主穂長1cm程度。
- ・夏黄金は、ほ場の排水がやや悪く、ところどころ湿害が見られるが、おおむね順調に生育している。鳥害はほぼ回復している。

登米 「あおばの恋」

- ・生育量は、草丈 16.8 cm、莖数 704 本/m²で鳥害の食害もほぼ回復し、概ね良好。
- ・幼穂長は 1.2 mm。幼穂形成始期は 2 月 28 日頃、幼穂形成期は 3 月 16 日頃と思われる。

石巻 「シュンライ」、「ミノリムギ」、「シラネコムギ」

- ・「シュンライ」草丈は 22.9 cm、莖数は 790 本/m²、幼穂長は 5.2mm だった。「ミノリムギ」草丈は 14.6 cm、莖数は 905 本/m²、幼穂長は 2.4mm だった。「シラネコムギ」草丈は 13.0 cm、莖数は 1120 本/m²、幼穂長は 1.1mm だった。
- ・3 ほ場すべてにおいて葉先の鳥害が見られた。またシュンライにおいて過繁茂した下葉が黄化を経由して枯れた。なお病斑は見当たらず葉色も回復傾向にある。
- ・シュンライほ場においてほ場畦畔沿いにスズメノテッポウ、ノボロギク、コハコベ類等の雑草が見られた。
- ・シラネコムギほ場においてスズメノテッポウが少程度見られた。